

卓 話

平成15年10月14日

新入会員自己紹介



市川 雅清 会員

仕事は葬祭サービス業「お葬式屋さん」
(株式会社市川葬典、1級葬祭ディレクター、DNAラボライター)

人間が死ぬ確立100%。唯一この世の中で間違いのない、人が母親から生まれてそして死ぬ確立。

人が目的のない虚しい人生を送ってしまう原因の1つは死の否認です。まるで

永遠の命を持っているかのように生きている、やるべきことを先延ばしにしがちです。死ぬことを意識することによって、人間は最後の段階まで成長することができます。「人の死」それは成長の最終段階でなければならないのです。

私の名刺

- ・ 1級葬祭ディレクター：厚生労働省認定の葬祭ディレクター技能審査協会が行う。1級・2級。学科・葬儀概論、実技・司会、説明実演と幕張。私は技能審査の審査官に選任されています。
- ・ DNAラボライター：アメリカの遺伝子研究機関であるアドジーン社のDNA採取資格です。

現在、遺伝子治療がすでに行われていて、癌やエイズそして難病など様々な病気の治療への可能性に期待がもたれ、親子三代のDNAデータがあれば将来的に70%くらいの確率で病気を治すことができるとも言われています。時代を先取りした「遺伝子納骨」(DNAのタイムカプセルサービス)をお勧めします。口内粘膜から専用の採取キットで体細胞を採取しDNAを抽出。DNAはほとんど目に見えないのでタンパク質やDNAをコーティングして可視化し、専用18金ホルダーに収めます。抽出したDNAは全て申込者にお返しますのでプライバシーの保護は万全です。1000年以上、人がこの世に生きた証となり、形見として、持たれる人の宝物にもなります。

もう1つ特長として、国際星名登録を行っております。アメリカ・カナダに本部があるインターナショナル・ステラ・レジストリーを通じて、星に個人の名前を登録するサービスです。登録に際して、登録証明書 12星座の入った星座図 詳しい星図 登

録カード（携帯用） アメリカ議会図書館に永久保存。過去にエリザベス女王、ダイアナ妃を初めとする英国皇室、各国の著名政治家、俳優、アーティストを初めとし数十万人が登録されています。

「お葬式」の役割と意味について、「お葬式」というとどんなイメージが浮かびますか？おそらく皆さんはこんなイメージが浮かぶのではないのでしょうか？

「自然」に見えるようにメーキャップされたきれいな遺体、礼儀正しいが誠意のない甲問客、「泣くのは大人げない」と一生懸命涙をこらえている姿、偽善的で無意味な儀式、非情で思いやりのない人たち。お葬式は多くの人にとって、今無意味で不愉快な儀式になってしまってるのでは、と私もほんの少し思っています。本来「葬儀」というものは故人と遺族の両方のために行うもので、2つの役割があります。1つは故人の魂、みたまを現世から来世に橋渡しすること。2つめは遺族が悲しみを乗り越えるために「死」を現実とし受け入れられるようにして、葬儀の後、また元の生活を取り戻し、この経験を通して成長することができるようにすることです。今私たちは「愛する人の死」という現実と直面させないようにと遺族をかばってしまいます。自分たちで遺族の代わりを務めて遺族はただ黙って座らされています。でも実は、そうすることによって、遺族には悲しみを隠すことを強要し、彼らの苦悩を大きくし、長引かせて、愛する人の死を受け入れる邪魔をしているのです。大切なのは、遺族の「悲嘆の作業」を促進してあげることなのです。悲嘆の作業が始まるのは、本人たちが受容したときから、つまり愛する人の死を認めて、顔を上げて、現実をみつめたときからです。理性の上でも、感情の上でも、受け入れなくてはなりません。理性だけ、頭の中だけで受け入れてもその受容はまやかしてしかなく、非常に破壊的になることがあるのです。

昨年アメリカのテロで愛する人を亡くした人たちが、長い間悲しみから立ち上がれないのは遺体もなく愛する人の死を理性だけで受け入れ、感情の上で事実として受け入れていないからなかなか「悲嘆の作業」に入れないからです。

口が開いて、回復を待っている傷はやがて治りますが、まだ傷口が開かず、中が化膿している傷の治療には時間がかかってしまいます。はけ口のない悲しみは危険をはらんでいます。私たちのすべきことは、遺族の人たちに苦痛を避けることなく、しっかりと、ゆっくり経験をさせてあげることです。人の死には、リハーサルもプレイバックもないから大切な人を亡くしたときの気持ちはその時しか味わえないのです。自分の愛する者を亡くした時に、愛する心も一緒に失うことのないように。

「悲嘆の作業」がいちばん目標としているのは、心の痛みを感じずに思い出することができるようになることです。人はその経験によって、人生が豊かなものになり充実感を得ることができるのです。人は悲しむことによって成長することができるのです。そんな思いを持ってお葬式に臨んでいただきたいです。私自身も。